



業種：洗濯・理容・美容・浴場業

会社概要：

きもの総合加工 1. きものアフターケア 2. ビフォア加工（ガード・修正・縫製などの一貫加工）
3. きものデリバリーセンター 4. きもの製造販売 5. 無菌人工給餌周年養蚕事業

所在地：

新潟県十日町市高田町6丁目597-1

ホームページ：

<https://www.kimono-brain.com>

会社のPR情報

きもの産地である十日町で1988年にきものブレインを設立。きものアフターケアから仕立てまで、きもの総合加工を行っている会社です。ベトナムのホーチミン市に子会社があり、海外縫製も展開しています。2015年には新規事業として無菌人工給餌周年養蚕事業を開始し、現在は当社で育てたみどり繭を原料とした化粧品などの販売を「絹生活研究所」というブランドで行っています。

会社からのメッセージ

1989年に初めて障害者雇用を開始。1993年に10人の重度障害者を新たに採用し、旧労働省より「重度障害者多数雇用事業所」に認定されました。今年で障害者雇用を始めて35年になります。現在、様々な障害を持つ33名の障害者が共に働いています。障害者支援委員会を設置し、社員の意識啓発の場ともなっています。また、企業在籍型のジョブコーチが2名在籍し、きめ細かい支援を行っており、就業・生活支援センターなどの支援機関との連携も行うことで非常に高い定着率となっています。今後も当社の理念として障害者雇用を推進してまいります。

障害者雇用への取組の成果 (認定に当たっての評価ポイント)

数的側面

雇用状況	実雇用率が法定雇用率の3倍以上	15.43%
定着状況	過去3年間に雇い入れた障害者の雇入後6か月後定着率	100.0%
	障害者の平均勤続年数	約14年

体制づくり

障害者の活躍推進のためのリーダーシップ・部署横断体制の確立	当社社長が作成した「きものブレイン フィロソフィ」を、就業時間中に2ページずつ毎日全社員が唱和している。その中に障害者雇用について理解促進のことが記載されている。また、当社では障害者支援委員会を設置し、各部ベテラン社員から新入社員まで、計25名ほどで委員会活動を行っている。委員会メンバーの任期は2年で、障害者の特性や課題などの情報共有を図り、日常の支援や避難訓練等の練習に参加している。
障害者の活躍推進に当たっての障害当事者の参画	障害者職業相談員の資格を取得している障害者が1名おり、社内の障害者のよき理解者として指導にあたっている。
支援担当者の配置等	企業在籍型のジョブコーチの資格を取得し2名在籍している。(平成26年、30年取得)。また、各部署に障害者職業生活相談員を配置(7名)しており、相談員への助言や障害者本人への支援も対応している。

障害者雇用への取組の成果 (認定に当たったの評価ポイント)

体制づくり

専門的な外部研修・セミナーの活用

障害者の職場適応に関する専門的なノウハウを持つ人材を育成するため、障害者の配属先が比較的多い部署である商品加工部に1名、総務部に1名と企業在籍型職場適応援助者養成研修を受講してもらった。この社員は障害者への支援や、上司・職場の指導者への指導・家族への連絡等を行っている。また、外部セミナーに参加し他社の取り組みについて参考にしたり、ディスカッションに参加し意見交換を行った。

仕事づくり

過去3年間のいずれかの年で経常利益が黒字

2021年度の経常利益が黒字となっている。

適切な方法により個々の障害特性に配慮した職務をマッチング

2022年に知的障害者を雇い入れる際、ハローワーク及び就労支援機関「なごみ・あおぞら」から対象者の障害の特性や能力について説明を受けることで、対象者に適した職務についての理解を深めた。これにより、対象者の特性に適した職務の求人を提出し、面接を経て雇い入れることができた。

環境づくり

障害特性に配慮した作業施設・設備等の整備

下肢障害の社員が移動しやすいように、スロープや手すり、引き戸や昇降機、障害者用トイレを設置している。また、カード認証機や掲示板、自動販売機を車イスの社員の目線に合わせて設置している。降雪の時期は、車イスの雪をはらうエアコンプレッサーを玄関に設置している。

障害者の職場実習生の受入れ

川西特別支援学校の生徒の職場実習を毎年受入れている。その際には、指導担当者を配置し会社のルールや作業指導を実施。実習は、生徒の特性に配慮し支援学校の先生と日程調整や作業内容を確認の上、ご家族に了解を得て実施している。

障害者雇用への取組の成果 (認定に当たったの評価ポイント)

環境づくり

障害特性に配慮した作業マニュアルのカスタマイズ、作業手順の簡素化

知的障害者が分かりやすいよう作業手順や完成図などの写真を貼り付けている。また、機械を使った業務については、より手順が分かりやすいように手順作業マニュアルを作成している。梱包資材（エアチューブ）をつくる際、資材の長さの把握ができるよう、テーブルにシールを貼り、その上に資材を乗せて合わせることで適切な長さであるかどうかを瞬時に判断できるようにしている。

障害者雇用に関するセミナー講師や企業指導等の実施

2023年12月4日（月）新潟県弁護士会主催のセミナーに、当社の専務取締役が講師として新潟市民プラザで講演を行った。

過去3年間に、障害特性に応じた通勤配慮を実施

車イスの社員を自宅から会社と会社から病院までの送迎を行っている。また、最寄りのバス停から就業場所となる工場まで離れているため、知的障害者1名を送迎している。

過去3年間に、障害者の職場定着のための外部機関との連携・社会資源の活用を実施

職場適応上の問題が起こった際に支援機関の支援を速やかに受けられるよう、日ごろから連携を図っており、意見交換のためにケース会議に参加している。実際に昨年度は、家庭で問題が生じた際に仕事に集中できなくなる傾向が見られたため、支援機関に相談し助言をもらった。

質的側面

人事に関する処遇が特に優良

申請時点で、障害のある社員1名が課長職として勤務している。機械加工課の管理者であり、障害者が多数勤務している部署を担っている。